

① 衰え果てる先に

○ 主の真実と義によって答えられる祈り

- ダビデは羊飼いであり、8人兄弟の末っ子

- 王として選ばれてから多くの試練

 - ⇒ サウルに何度も殺されかける

 - ⇒ 自らの罪ゆえに苦しむ(バテ・シェバ)

 - ⇒ 息子アブサロムにいのちを狙われ、逃亡する

- ダビデは常に正しく、清らかで、主のみこころを行えなかった

- ダビデは自分の弱さ・罪を良く知っていた

- 主の真実と義により頼む

「主よ 私の祈りを聞き 私の願いに耳を傾けてください。

あなたの真実と義によって 私に答えてください。」(1節)

① 衰え果てる先に

○ 罪と汚れに満たされた私たち

「あなたのしもべをさばきにかけてください。
生ける者はだれ一人あなたの前に正しいと
認められないからです。」

(2節)

- 神さまの前に義と認められる人はいない
- 罪に陥らない人はいない

「主よ あなたがもし 不義に目を留められるなら
主よ だれが御前に立てるでしょう」

(詩篇130篇3節)

① 衰え果てる先に

○ 罪と汚れに満たされた私たち

「敵は私のたましいを追いつめ 私のいのちを地に打ちつけ
死んで久しい者のように 私を闇にとどめます。」 (3節)

- 敵はダビデの罪を一つ一つ指摘し、責め、追いつめる

- ネガティブなことばは、ダビデの心を衰え果てさせる

「それゆえ私の霊は私のうちで衰え果て
心は私の中で荒れすさんでしまいました。」 (4節)

- 私たちもネガティブなことばに悩まされる

- 真っ暗な闇にとどめられる

① 衰え果てる先に

○ なぜ闇を経験するのか

- 聖書の中の信仰者たちも闇を経験する
- 私たちが闇の中で、光なるキリストを見出すため
- 渇き切った心を生ける水・聖霊で満たすため

「光は闇の中に輝いている。

闇はこれに打ち勝たなかった」(ヨハネの福音書1章5節)

- 光なるキリストに従うなら、決して闇の中を歩むことがない
- 一方で、私たちはいつもキリストに従えない

② 静かに考える(5-6節)

「私は昔の日々を思い起こし あなたのすべてのみわざに 思いを巡らし あなたの御手のわざを静かに考えています。」(5節)

○ 昔の日々を思い起こす

- ダビデが羊飼いのころ、純粹に主に信賴して歩んでいた

「獅子や熊の爪からしもべを救い出してくださった主は、
このペリシテ人の手からも私を救い出してください」

(サムエル記第一17章37節)

- 闇の中にあるダビデの心にあった祈り

「主は いつまでも拒まれるのか。もう決して受け入れてくださらないのか。主の恵みは とこしえに尽き果てたのか。約束のことは 永久に絶えたのか。神は いくしみを忘れられたのか。怒ってあわれみを閉ざされたのか」

(詩篇77篇7-9節)

② 静かに考える(5-6節)

「あなたに向かって 私は手を伸べ広げ 私のたましいは
乾ききった地のように あなたを慕います。」 (6節)

○ 渇き切った心に

- ダビデは主なる神さまに手を伸べ広げる
- 昔、あらゆる苦難から救い出してくださった主は、今も変わらず、
どれほど罪深く、愚かであっても、救い出してくださる
- 主だけが私たちの渇きを癒やしてくださる
- 圧倒的な絶望感と強烈な渇き

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように
神よ 私のたましいはあなたを慕いあえぎます」
(詩篇42篇1節)

② 静かに考える(5-6節)

○ 罪の現実を知る恵み

- 渇きは主なる神さまが与えてくださっている
- 罪の現実是我们を苦しめる

「悔い改めとは、己を死なせること。肉に完全に死ぬことを求め、死に続ける。でもただ死ぬだけでなく、自分に望みをおかず、神を追い求め、神を乞い慕い、キリストだけに望みを置くこと」

- 主は昔も今も、変わらず私たちを愛してくださる
- 私たちがどれほど罪深くて、どれほど主を裏切ったとしても、私たちが主に立ち返るなら、主イエスさまの十字架のゆえに私たちは赦される
- 主だけを慕い求めて歩みましょう